

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学  
学長選考会議（平成29年度第2回）議事要旨

- 1 日時 平成30年1月17日（水）13:00～13:43
- 2 場所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
- 3 出席者 矢嶋議長  
小山、田中、野間口、板東、小笠原、松本、橋本、太田、寶學、箱嶋、中島の各委員  
欠席者 垣内委員  
出席監事 西村監事  
陪席者 石川企画・教育部長、西山企画総務課長
- 4 配付資料  
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長選考会議  
（平成29年度第1回）議事要旨（案）  
資料2 意見照会での主な意見等
- 5 議事  
(1) 前回議事要旨の確認について  
資料1の前回（平成29年度第1回）の議事要旨（案）について、原案どおり承認した。  
(2) 学長の任期について  
事務局から、資料2に基づき、前回の会議後に行った学長の任期に係る意見照会結果について説明した後、意見交換を行った。

（主な意見等は、次のとおり）

- ・学長が、これまで以上に学外からの資金獲得に注力していくには、任期が4年では足りないのではないか。
- ・これまでの学長と、これから学長になる人とで、求められる適性が変わってくるのが考えられるため、時代に適合した学長が継続できるような仕組みにしておいた方がよい。
- ・学長の業務執行状況を評価し、適任であると判断すれば再任すればよく、あらかじめ再任の上限を決める必要はないのではないか。
- ・学長の業務執行状況を評価し、問題があると判断すれば解任できるため、任期は重要な決定事項ではないだろう。
- ・現在の学長の任期では、中期目標・中期計画期間に連動しないことと、再任がなく柔軟性に欠けるという問題があるため、4年+再任2年が良いのではないか。
- ・中期目標・中期計画期間に任期を合わせるという議論があるが、中期計画すべてに携わるには、前年の中期計画の作成から終了後の評価書の提出までの期間が必要となり、8年の任期が必要になるのではないか。
- ・開学以来20年以上、学長の任期を4年としてきた本学にとって、学長任期4年であることに弊害があるとは思っていない。
- ・学長の任期が長い方が、学外の関係機関と良好な関係を築けるという観点からすると、これまでより学長任期が長くてもよいかもしれない。

- 人口の減少に伴い、ますます各大学において、囲い込みが厳しくなる中、学部を持たない大学として、優秀な学生の確保、組織のスリム化等に取り組むことが求められるため、これらの職務を全うできる任期とする必要がある。
- 学外者から学長を選出した場合、様々な改革を進める上で、学長任期4年では短いのではないか。
- 中期計画を作成し、これを5年間責任をもって行うというサイクルに合わせて、学長の任期を6年にしなければ、理想だけを掲げて任期を満了するということが生じてしまう。
- 今まで学長の任期が4年うまくいったというが、それは国立大学法人になる前の話であり、今のような運営費交付金が減額される状況とは異なるのではないか。
- 学長のリーダーシップ、ガバナンスの強化、経営力の強化が求められるため、4年間という任期では、組織改編を含めた大学の運営が難しいのではないか。

以 上